

マリー(1931)(部分)

近代彫刻の巨匠

マイヨール展

日本初公開の彫刻18点を含む、93作品を展観

高松市美術館

高松市紺屋町10-4
Phone(0578)23-1711

開館/午前9時~午後5時(入室は午後4時30分まで)

初日は午前10時開展

金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

月曜日は休館

95.2.24(金)~3.26(日)

入場料

一般	900(720)円
高大生	600(480)円
小中生	300(240)円

※()内は、前売および20名様以上の団体料金です。

主催/高松市美術館、マイヨール美術館、ディナ・ヴィエルニ財団、読売新聞大阪本社、西日本放送、美術館連絡協議会
後援/外務省・文化庁・フランス大使館 協賛/花田株式会社・安田火災海上保険 企画協力/現代彫刻センター 協力/日本航空

ARISTIDE MAILLOL

アリステイネー・マヨール(1861～1944)は、ロタン・ブールテルらとともに近代彫刻の誕生をもたらした三大巨匠の一人として知られています。ナビ派の一員として、また絵画やタピスリーの制作にもその優れた才能を示したマヨールが、本格的に彫刻に取り組んだのは40歳のときでした。1902年の初個展に出品した『レダ』はロタンとの絶賛を浴び、また1905年にサロン・ドートンヌに出品した大作『地中海』は、彼の彫刻家としての名声を揺るぎないものとなりました。

その後も『イル・ド・フランス』『三美神』といった数多くの優美な女性像によって、おおらかな地中海芸術の伝統に根ざした調和と均衡のとれた造形美を表現し、後世の彫刻家たちにもはかりしれない影響を与えました。

本展はマヨールの没後50年を記念して、パリのマヨール美術館などから特別に出品された日本未公開作品18点を名おブロンズ彫刻3点と、版画、素描20点の合計48点の作品によりマヨール芸術の全貌をたどろうとするものです。



レダ『産む女』(1895)



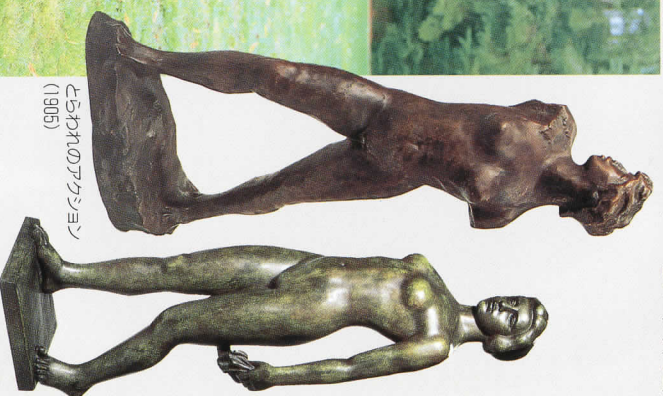
レダ(1900)



ルノールの肖像
(1907)

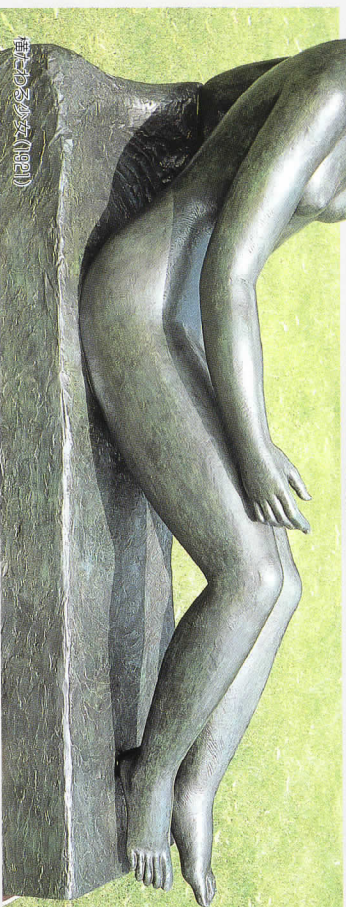


チュニツクを纏うホモナ(1921)



とらわれのアカシジョン
(1905)

イル・ド・フランス(1925)



産む女(1902)

■記念講演会

「マヨールとその芸術」

穴澤一夫(東北芸術工科大学教授)

日時/2月26日(日)

午後1時30分から

場所/高松市美術館講堂

入場料/無料(先着200名様)

■第5期常設展のお知らせ

「展示室1『ポップ人間大集合』

「展示室2『彫漆の歩み』

3月26日(日)まで